

組織目標評価報告書（令和7年度）

部局名：		学域名：	部局長名：
文学部		社会文化科学学域(文)	田中共子
目 標		目標に対する達成状況(成果)及び新たに生じた課題等	
①教育領域	関連する 中期計画の番号		
		教育領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等	
1. 入試における志願者と倍率の確保を課題として、UAAと連携して高校のニーズや社会の動向を踏まえた教育情報の発信を行い、志願倍率を大学執行部設定の目標値とする2.0以上に安定させるための対策を実行する。 2. 新学習指導要領で学んだ学生に対応する教育改革の実質化を課題として、学修者主体の学びと教育の内部質保証の仕組みを強化する教育プログラム制度を実質化し、設定した全プログラムの実施を実現する。 3. 現状を見据えた学生支援と学習環境の充実を課題として、単位の修得状況に問題のある学生やメンタルに不調をきたした学生への対応を組織的にを行い、過去3年間2%台に抑えてきた休学率を同水準に維持するための対策を実行する。 4. 留学生の派遣、受け入れに関して、派遣及び受け入れ先の多様化と昨年度以上の派遣(2023年度は10名、2024年度は2名)、受け入れ(2023年度は21名、2024年度は18名)の増加を課題として、新たな国際交流を展開し、交流促進のための企画を実施する。	2-1 2-2 3-1 4-1 7-1	1. 入試における志願者と倍率の確保を課題として、以下を実施した。 ①UAAを講師に、本学部の入試動向について全員参加の研修を実施し、現状と課題の分析結果を共有して広報戦略の土台とした。 ②総合的・多角的な広報展開を図るため常設企画に独自企画を加え、学術講演＆学部説明のジョイント型高校訪問、オープンキャンパスで現役学生参加型の保護者説明会を試行した。 ③一般選抜の倍率が2.0倍から3.1倍に高まり、目標を達成した。倍率維持が課題である。 2. 新学習指導要領で学んだ学生への教育改革の実質化を課題として、以下を実施した。 ①1年次アカデミック・アドバイザー相談会、在学生オリエンテーションを複数回開催し、教育プログラム3種の理解を深めた。 ②年度末に全プログラムで修了認定者輩出の見通しを得て改革の成果を形にした。学習成果の検証が次の課題である。 3. 現状を見据えた学生支援と学習環境の充実を課題として、以下を実施した。 ①学生生活委員会主導で年2回、指導教員による単位不足や成績不振の学生への指導の機会を設け、メンタル不調者などをフォローアップする体制を築いた。人社系6部局独自の学生・院生相談ルームを設け、専門の相談員が個別に懇切なフォローアップを行った。 ②過去3年間2%台の休学率維持を目標としたが、約1.5%へ低下し、目標を上まわる達成を果たした。その維持が課題である。 4. 留学生の派遣・受け入れの多様化と数の増加を課題として、以下を実施した。 ①「異文化体験」の授業の実績を積み、交流企画を推進し、タイのカセサート大学等の提携大学からの教員・学生の訪問団を受け入れた。 ②派遣数は昨年度の2名から7名、受け入れ数は18名から24名に増え、規模拡大を達成した。交流先のさらなる多様化が課題である。	
②研究領域	関連する 中期計画の番号		
		研究領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等	
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号		
		社会貢献(診療を含む)領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等	
1. 社会貢献の充実と周知によって文学部の営みの社会的発信を強化することを課題として、社会・地域との効果的な連携を検討し実行するとともに、高大連携では入試説明と高校訪問の融合イベントを構成して実施する。 2.文学部の研究・教育活動における特徴や強みをより詳細に社会に発信することを課題として、HPの活用を進め、研究成果の紹介、イベントの告知と報告、英語での情報提供の充実を実現する。 3. SDGsを推進する取り組みを促すことを課題として、学生の研究活動におけるSDGsに関わる顕彰を実施する。 4. 大学間協定・部局間協定を充実させることを課題として、文学部の将来構想において重要となる協定校との絆を強化し、特に近年国際交流協定を結んだ大学との間で立ち上げた新企画を着実に実行し軌道に乗せる。 5. 現代社会における建設的な国際貢献の実践を課題として、日本語・日本文化研修留学生等の国費留学生、および他の留学生とともに、国際交流行事を開催する。	1-1 7-1 11-2	1. 文学部の営みの社会的発信を強化することを課題として、以下を実施した。 ①高校からの大学訪問を受け入れ、研究入門の講義および学部生との交流を行った。文学部教員が高校を訪問して、教員による地域連携活動の紹介、研究講演、学部説明を行った。課題探求型授業の情報交換を行って、高校との協働を進めた。 ②岡山県子ども・福祉部、県民生活部の依頼を受けて講座開設の準備を進めた。 2. 文学部の特徴や強みの社会発信を課題として、以下を行った。 ①HPに、文学部の研究・教育活動、学術イベントの告知・報告、国際交流・社会貢献の情報等を掲載した。英文HPを運用し、広範囲に情報発信を行った。 ②新規の日越交流に係る共修環境整備一環として、研究科・学部の短期プログラムを構築した。 3. SDGsを推進する取り組みを促すことを課題として、以下を行った。 ①文学部SDGs卒論賞を新設し、FD委員会が運用を担い、関連研究7件の顕彰を決定した。 4. 大学間協定・部局間協定を充実させることを課題として、以下を行った。 ①タイのカセサート大学との間で学生の双方向派遣と、教員の授業提供・研究交流を行った。協定校出身の院生2名、研究生1名の獲得につながった。 5. 現代社会における建設的な国際貢献の実践を課題として、以下を行った。 ①タイのチュラロンコン大学、トルコのチャナッカレ大学を訪問して交流を行い、日本語・日本文化研修留学生の現地選抜を実施した。後者とは文学部生との国際オンライン交流会を実施した。 ②日本語・日本文化研修生の修了式後に、教員との交流会を実施した。 ③留学生担当教員主催の国際交流会を、文学部公認企画として整備した。 6. 上記の取組により、社会発信と国際交流の充実という成果を得た。活動の継続が課題である。	
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号		
		管理運営領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等	
1. 業務構造の改革を課題として、学部長のリーダーシップを支える体制となる執行部と委員会の連携を強化し、文明動態学研究所への移籍教員の業務負担に配慮した調整を実行し、学部長室の非常勤職員を、戦略的な事業に関与させる。 2. 構成員のウエルビーイング向上を課題として、部局内サバティカル制度(長期研修制度・特別研究期間制度)や各種休業制度を周知して利用実績を挙げるとともに、会議の整理と効率化、会議時間の短縮を実行する。 3. 財源の有効活用を課題として、支出構造を見直し、教育基盤経費の重点配分を実施する。 4. 優秀な人材を確保し、部局の活性を高めることを課題として、人事では広く人材を募り、教授:准教授&講師:助教=1:1:1の割合に配慮のうえ、女性採用割合を45%以上、R10女性教員割合を34.9%以上、40才未満の若手教員割合を25%以上と想定し、女性・外国籍・若手の教員の採用・昇任を実現する。	11-2 13-1 14-1	1. 業務構造の改革を課題として、以下を行った。 ①部局長・副部局長・主要委員長による学部長室会議を11回を開催し、重要事項を協議した。 ②文明動態学研究所への移籍教員の業務負担に配慮した調整を協議・実行した。 ③学部長室の非常勤職員にHPを用いた学部広報の業務を担ってもらった。 ④連携体制の安定的運用が達成された。さらなる強化が課題である。 2. 構成員のウエルビーイング向上を課題として、以下を行った。 ①産前休暇・産後休暇・育児休業1件、全学の女性リーダー育成海外派遣事業による長期海外出張1件、科研費による長期海外出張1件という成果があり、取得実績の蓄積が課題である。 ②会議の合計・平均時間ともR6と同水準を保ち、R3より4～5割減の状態の維持を達成した。 3. 財源の有効活用を課題として、以下を行った。 ①科研費の取得が申請を教員研究費の要件とし、インセンティブを高めた。 ②「21世紀の人文学」を掲げるプロジェクト研究、講演会等を募集し、学部の教育研究費の5%を配分した。 ③重点配分の実績を成果としつつ、継続的な見直しが課題である。 4. 優秀な人材を確保し、部局の活性を高めることを課題として、以下を行った。 ①女性教員の採用数2名・採用割合50%の実績を残した。R8.4.1には女性教員の在籍数17名・在籍割合41.5%となり、指定された数値目標を達成した。 ②若手教員は在籍数7名・在籍割合17.1%、昇任は日本人男性教員1名(女性・外国籍・若手なし)であり、想定を下回った。今後の若手採用の蓄積が課題である。 ③職階別人数比は、R8.4.1には教授:准教授&講師:助教=13:26:1で、前年の16:29:0より改善し、目指す割合への途上にある。長期的展望のもとで、引き続き目標に近づけていくことが課題である。	

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。
注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。